

## 1 「早崎内湖ビオトープ」の概要

早崎内湖ビオトープは、昭和39年食料増産に向けて当時内湖（ないこ）であった早崎内湖を堰き止めて、70ヘクタールが水田化されたもので、昭和45年に完陸（かんりく：完全に陸地となること）しました。

しかしながら、この内湖はびわ湖水面より低いため、常にポンプで水を排出して水田を維持する必要があり、経費がかかりました。また、30年以上経過したことでポンプ施設が老朽化し、更新時期を迎えていたことに加えて、米の生産過剰や農業の後継者不足等といった社会情勢もあり、もとの内湖へ復元する計画が持ち上がりました。平成13年11月に17ヘクタールに試験的に水を張り、以降、水生生物の復元状況を調査しています。

## 2 「ビオトープ観察授業」について

早崎ビオトープネットワーク（会長：倉橋 義廣）では、地元の小学校を中心に観察授業を開催しています。この総合学習は平成15年春から始まり、今年で20年目を迎えます。令和元年度まで早崎ビオトープネットワークが実施していたこの観察授業を、令和2年度から早崎ビオトープネットワーク所属する早崎内湖再生保全協議会として実施しています。

当日は、地引き網やたも網などを使ってさまざまな水生生物を採取して、早崎内湖ビオトープに生息する生物について学びます。

## 3 その他

- ・ 荒天の場合は、延期または中止することがあります。（予備日：未定）
- ・ 事前授業を6/23(木)に実施しました。